
部活時々初恋

あじら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

部活時々初恋

【Nコード】

N7397Y

【作者名】

あじら

【あらすじ】

母との何気ない会話で思い出す思い出。
忘れていたあの頃を思い出す。

それは何か動き出すシグナルかもしれません。

初投稿です。

つたないお話ではありますが完結できるように頑張ります。

暖かい心で見まもってください。

中編ぐらいのお話になる予定です。

プロローグ

「そう言えばあなたの高校時代の先輩何て言ったかしら？ほら、あなたがよく面倒見てもらった」

「山脇先輩？」

「そうそう、その先輩結婚されたそうよ」

「そうなんだ。ってか、なんで母さんが知ってるの？」

「広報に載ってたの」

「ああ。先輩警察官だったね」

仕事から帰ってすぐ母親に言われ、先輩の顔を思い浮かべた。

山脇晴明

私の一学年先輩。

そして、初恋の人。

「山脇先輩か〜懐かしいなあ」

最後にあっただのは私が二十歳になった時。

あの時はたしか、警察学校に行ってるって言ってた。

「懐かしいなあ〜」

入部初日〜三日

「ね、部活どうする？」

高校入学から一週間。

同じ中学からこの賢光^{けんこう}臣^{しん}高校に來た友達は三人。

その内の一人は同じクラスになった向井薫が前の席にいた私、^あ阪井淳華^{つが} に話しかけてきた。

「ん？私は決まってるよ」

「また吹奏楽？」

「うん。そのためにここ受けたんだしさ。かおちゃんは入んないの？」

「うーん、吹奏楽はもういいや。テニス部入ろうと思ってる」

「そっか」

かおちゃん、こと薫は中学は私と同じ吹奏楽部でフルートをやっていた。

私は小学生の頃からずっと吹奏楽一筋で楽器も何となくチューバを続けている。

高校では、違う楽器をやってみたいと思っていた。

思っていたんだが……………

「君、阪井さん？チューバやってたんだって？」

「はあ、」
「じゃ、チューバよろしく!!!俺、トロンボーンやりたいからチューバは頼んだ」
チューバパートの三年で部長の高峯先輩の一言で、決定してしまいました。
後から同じ中学から来ていた先輩に聞いたのだがどうやら春休み中に顧問と話していたようでチューバに1年が入ったら移ってもいいと言われていたようだ。

「どうしよう…」
「なにが？」

一人鬱になっていたら高校からの友達、井本桂子が不思議そうに首を傾げていた。

「私の中学って吹奏楽は女子ばっかだったからさあ〜」
「そうなんだ？」

「男の先輩ってどうもさあ〜上手くやっていける自信無い」
「大丈夫だつて〜」

真剣に悩んでいるのに井本は笑った。

「イモはいいよ!!!同じ1年も二人居るし、女の先輩も居るからさ
…私なんて男の先輩と二人だよ!!!」
イモはサククスなので人数が多い。

ソプラノ一人、アルト二人、テナー二人、バリトン一人の総勢六名。それに引き替え、私のチューバパートはまだ見ぬ男の先輩と私の二人。

何故まだ見ぬのかとゆうとどうやらその先輩は特進クラスで授業が二時間多いらしい。

クラブ紹介の時も模試があったらしく不参加だったらしいのでまだどんな人かは知らないのだった。

居ない間、私は同じバスパートと言うことでユーホニウムの先輩

が面倒を見てくれていた。

「大丈夫だつて、あつちんならさ」

このあつちんと言うのもその先輩がつけたあだ名だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7397y/>

部活時々初恋

2011年11月22日02時56分発行